

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>事業所の理念『健康・食・趣味・心・見聞を大切にしていきたい』と掲げています。ホール前に掲示してあります。</p>	<p>事業所の理念である『健康・食・趣味・心・見聞を大切にしていきたい』を掲げています。今年度は各ユニットで職員と一緒にユニット目標を作成し、掲示しています。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>日常的には地域の方々との顔を合わせたときなどの挨拶を心がけ、小学校・自治会の行事にも積極的に参加しております。</p>	<p>近隣の小学校の特別学級の生徒が2ヶ月に1度楽器の演奏に来てくれたり、小学校の文化祭にも出かけています。また、地域の夏祭りやもちつきにも参加し地域との交流を深めています。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域の行事などで入居者様と一緒に出かけ、私たちの言葉かけ、支援など目に見えない形では理解されていると思いますが、認知症についてのご理解は運営推進会議にとどまっております。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>取り組みの状況報告と地域包括支援センターの担当者の勉強会で、意見交換をする事により、絶えず振り返りの場となりサービス向上に活かしております。</p>	<p>2ヶ月に1回、民生委員、地域包括支援センター職員、自治会副会長、住民代表など参加していただき運営推進会議を実施し、そこでの意見を職員等にも周知し、サービス向上につなげています。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>特に運営について疑問に思う事は、積極的に連絡を取っております。</p>	<p>生活保護の方や困難事例に関しては市に問い合わせを行い、指導を受けるなどの関係を構築しています。</p>	
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束・虐待についての研修も行っており、職員の意識と、事実施錠などの身体拘束も行っていません。</p>	<p>身体拘束をしない方針であり、リスクマネジメント委員会を毎月実施し検討しています。また、身体拘束の研修も行い、職員の理解を深めています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待についての研修もっており、職員の虐待につながるような言動にはとくに注意し、尊厳を大切に努めております。	身体拘束同様に、リスクマネジメント委員会を毎月実施し検討しています。また、虐待についての研修も行い、職員の理解を深めています。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者様もあり、権利擁護について知っているものの深く理解されていない職員もおります。勉強会など不十分です。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	パンフレット・重要事項説明書・契約書・個人情報使用同意書について、十分に時間をかけて説明し理解して頂くように努めています。不安や疑問点について確認し、理解して頂けるように努めております。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時・電話を通じて意見や要望を聞き、運営推進会議で公表し改善していくよう努めております。	ご家族の面会時に意見や苦情を確認しているほか、運営推進会議にて要望の確認や、行事でご家族がホームに来られた時にも確認をしています。また、本社でもご家族に対してアンケートを行い、要望の確認の機会を設けています。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを月1回必ず開催し、職員からの現場の声を聴くようにし、業務の改善に繋げております。	毎月のユニット会議や全体ミーティングにて職員の意見を確認する機会を設けているほか、個別面談も実施しており意見や要望を把握できるように努めています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、職員のやりたい事も大いに取り入れ、やりがいを持って仕事ができるように考えています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の研修、外部研修の案内を知らせ、機会の確保を行い、さらに伝達研修を行い、参加したスタッフだけの知識にならないようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内の研修を通じて交流出来ております。社内のグループホームと交換研修を行っております。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に時間をかけてご本人の思いをよく聴く機会を作り信頼関係を築けるように心掛け、納得した上でグループホーム利用して頂ける様に努めております。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時にこれまでの経緯や家族の不安、思いをゆっくり聴き、信頼関係と安心感を築けるように努めております。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族の思いや状況で何が必要なのかを見極めるように努めております。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様主体を基本に、日々の関わりの中で大切にし、生活を共にすることでご本人の思いを感じ取るように努めております。一人ひとりの出来る事や役割を探し、新しい発見を見つけるように努めております。		
19	(7-2)	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員からの一方通行な関係にならないように連絡を密にして、ご家族様と連携を図り共に支援し合える関係作りに努めております。	ご家族には毎月、活動の様子をまとめた広報を送付し情報を伝えているほか、居室担当者が毎月お手紙を送りご家族との情報の共有に努めています。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・親族だけではなく、友人・知人・隣人の方々にも面会に来ていただいております。常に歓迎し、一緒に過ごす時間を大切に出来るように配慮しております。	馴染みの場所への個別外出の機会を持ったり、ご家族、知人などの面会も頂き、関係が継続できるよう支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々に自由に過ごす時間も大切にしながら、共有スペースを活用し、レクリエーションや作業を通じて関わりをもてるような支援に努めております。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて対応するように努めておりますが、現在では関係を続けている方はございません。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の要望やどのような生活を送りたいかを聴き、一人ひとりの生活に反映できるように努めております。自己決定や表現が困難な場合でも職員全体でご本人の立場に立って検討しております。	ご本人、ご家族の要望を確認し担当者会議にて一人ひとりの介護計画に反映できるように努めています。ご利用者が表現が困難な場合も、日頃の生活の中でのお話などから意向を確認するようにしています。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族様、関わりのある方から情報収集を行い、入居以前の生活歴や暮らし方の把握に努めており、入居後も反映できる所は取り入れるように努めております。	入居時に把握したアセスメントだけではなく、日々の生活でご利用者との会話や、ご家族からの情報収集により把握に努めています。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	小さな変化も見逃さないように努め、申し送りを通じて、職員に伝わるようにしております。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の希望や身体状況を把握しカンファレンスを行い、課題の把握や対応について検討しています。同時にご家族様にも意見を聞いたり、提案させて頂いております。	3ヶ月に1回モニタリングを実施し、課題の把握や対応方法について検討しています。必要に応じてご家族からの意見等もお聞きし、介護計画に反映させています。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の共有について、個別の記録の他にも申し送りノートを活用しております。介護計画の見直しの際にも、経過を把握し活用しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々要望に応じて、出来る限り応えられるように努めております(受診等)。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様に楽しんで頂けるようにボランティアに来て頂いております。隣接のデイサービスにボランティアが来たときも参加させて頂いております。小学校とも交流があり定期的に来所して頂いており、自治会の避難訓練にも参加しております。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医との連携を図り、適切な医療を受けられるように支援しております。(インフルエンザ予防接種)必要に応じて往診も行っております。	ご本人及びご家族が希望する場合は協力医以外のかかりつけ医の受診支援をしています。また、協力医との連携を図り適切な医療を受けられるよう支援しており、必要に応じ往診もしていただいております。ご家族へ受診時に伝えていただきたい内容も職員から口頭で伝えております。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は週3回勤務しており、日常の健康管理、受診の同行を行っております。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お見舞いに伺ったり、ご家族様、病院関係者との情報交換・相談するように努めております。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、ターミナルケアのケースはございませんが、ご家族様にはご説明とご意向を踏まえた話し合いを進めております。	重度化した場合や終末期の対応については事業所としての指針も作成し、契約時にご家族に同意を頂いております。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し掲示しております。防災訓練にも参加し、応急処置を実践できるように意識を持ってもらうようにしております。	看護師より初期対応に関する研修を行い、職員が実践できるように指導しているほか、救命講習も2年に1度は行うようにしています。	
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施しており、入居者様と一緒にしております。地域の防災訓練にも参加し、グループホームの存在を知っていただき、地域の方々より協力を頂けるように取り組んでおります。	年2回避難訓練を行ないましたが、今年は夜間を想定した訓練は行ないませんでした。また、地震を想定した訓練の実施はまだありません。	夜間や地震を想定した避難訓練を実施し、全職員が状況に応じた対応ができるように検討されることを期待します。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	否定や尊厳を傷つけるような言動には、研修や日々の業務の中で周知徹底するように努めております。個人情報保護マニュアルを整備しております。	常にサービスを提供させていただくという立場であることを職員には教育しており、研修や日々の業務を通して周知徹底に努めています。また個人情報保護マニュアルを整備し、社内規定にも明記されており、対応の徹底しています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る事は積極的に行ってもらい、出来ない事は、配慮しながら援助できるように努めます。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースを大切に、ご自分で出来る事は可能な限り出来るように支援するように努めております。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人より理美容の希望があれば、近所の理美容院に行き、訪問理容も利用しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様に押し付けにならない範囲で、食事の準備や片付けを一緒に行っております。献立も入居者様の嗜好や新メニューを取り入れながら作成しております。	ご利用者の負担にならない範囲で食事の準備、片付けを一緒に行っています。献立もご利用者の嗜好を取り入れながら作成しています。ご利用者と一緒におやつ作りをしたり、回転寿司やラーメンの外出に出かけるなど、食事を楽しんでもらえるよう取り組んでいます。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員全体でバランスを考えた献立になるように考えております。水分摂取は自力で困難な場合は声かけを行い、1日の摂取量も記録に残しております。また健康管理にも関係するので毎月体重測定を行っております。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っております。その人に合わせ、見守りや声かけ、一部介助で支援しております。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握し適宜、声かけや誘導を行っております。また清潔保持も考慮し清拭を行っております。	排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握することで気持ちよく自然に排泄ができるように日々取り組んでいます。また、主治医とも連携し、場合によっては薬でのコントロールもあります。羞恥心を配慮した介助の必要性を職員にも周知しています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や乳製品を多く摂取して頂く様にしており、日常生活動作や体操・レクリエーション・散歩等で身体を動かすように働きかけております。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日曜日以外毎日入浴を行っております。入浴表を活用し管理はしておりますが、その人、その日の気分にもよるので強制はしておりません。入浴拒否の強い方には、銭湯も利用したり、外出レクの一環として日帰りや一泊温泉旅行も行いました。	日曜日以外の入浴でご利用者には2日に1回のペースで入浴していただいています。また、入浴を楽しんでもらう為に日帰り温泉や1泊2日の忘年会も兼ねた温泉旅行に行くなどの取り組みも行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝や就寝時間・起床時間は個人の生活リズムとも考慮し対応しております。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を見やすい場所に保管し、薬の変更などあれば受診記録、申し送りノートに記載し、周知出来るようにしております。病歴等も把握するように努めております。しかし、全職員が把握している訳ではありません。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の得意とするものや花壇の手入れ、飼い犬との散歩、買い物、歌やレクリエーションを提供し支援しております。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ひとりで戸外に出られる方もおられるので、職員は付き添うようにしているが、出来ない場合もあるので、あらためて散歩に誘うようにしています。ご家族にも外出の機会が持てるようにご理解して頂き協力して頂いております。	天気の良い日は散歩に出掛けており、個人の対応もできる範囲で行っています。100円のショップやコンビニでの買い物、花火や瓢湖、新潟ふるさと村へのドライブにも出かけており、地域に出かけたりする機会は比較的多いと思います。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、希望されてお金を所持されている方はございません。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はご本人の希望があれば使用して頂いております。はがきなどもご本人にお渡ししております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は居心地の良いものになっていると思います。職員はなるべくバタバタ動き回ったり、大きな声を出さないように配慮しております。季節感のあるものを飾ったり、写真なども貼っております。	できるだけ自然の光を取り入れるようにし、季節感のあるもの、手作りの日めくりカレンダーを飾っています。共用空間の家電製品や家具等は一般家庭用のものを使用しており家庭的な雰囲気になっています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員が目が行き届き、入居者様が集える空間を設けており、自由に過ごせる居場所となるように工夫しております。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等は使い慣れたものを使用いただき、身の回りには、好みの物や思い出の品を飾ったりして居心地良く過ごせるように配慮しております。家族の写真やご仏壇を置く入居者様もおられます。	家具等は使い慣れたものを使用いただき、身の回りには好みのものや思い出の品を飾ったり居心地のよい空間作りに努めています。また、ご家族の写真や手紙を飾ったり、仏壇を置いている入居者の方もいます。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には入居者様と話し合い、お名前と居室名を表示しております。浴室やトイレも表示しております。夜間中も居室に戻れなくなる方もおられるので注意しております。		